

---

# 空の詩

伊志嶺絆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空の詩

### 【Z-ONE】

Z-991-K

### 【作者名】

伊志嶺絆

### 【あらすじ】

空族と呼ばれる者達に拾われた少年の物語

## 好みの機器（温度計）

初めての作品ですが  
辛口で審査して貰いたい

## 空の詩

俺が生まれたのは争乱の最中殺され死んだ母親から産まれたのが俺だ。

そんな俺を拾つてくれたのが今の親父だ

周りの奴らは「死神の子だ」

「災いをもたらす」って好き勝手言つていたが親父だけは違つた。

「死神の子？ 災いをもたらす？」

「そんな筈ない！ 「イツは天使の子だ」 ってね

俺の背中には小さな小さなタトゥーかの様な天使の羽根が描かれていたそのおかげで拾つてもらつた訳で天使様々だと思つたよ

親父の職業？ は空族

その名の通り空の族

『スカイシップ』 って乗り物でまあ空飛ぶ船ね

何をするわけでもなく自由気ままに世界の空を飛ぶそんな感じの仕事かな

そんな空の物語が始まろうとしている

「逃がすんじゃねえぞ！！」 船内に怒号が響く

親父だ

二メートルを越す身の丈に百キロ以上の巨漢だが筋肉質で太つてみえないのそれが俺の親父だ

どうやら今日の獲物はどこかの商船らしい

「左舷に着けてぶつ放せ」ドオドオーン

大砲の音が鳴り響く

「よーしスピードが落ちた白兵戦だ」

その合図を待つていたかの様に俺は駆け出した。

「待ちな！！」

後ろから透き通った女性の声が響いた

振り向くとそこには美人で華奢な体つきの人がいた。アイリスだ

彼女の歳は俺の二つ上で俺より先に拾われた

男しかいないむさ苦しい空族の中で紅一点の我等がアイドル俺にとっては姉的存在だ

「アンタにはまだ戦場は早いのよ」

まだ俺は苦笑いした。前回も前々回もそれ以前から戦場には行かせてくれない迷惑な弟思いの御姉様だ

いつもなら渋々食い下がるが今日は違つ十六になる誕生日だからだほとんどの男の初陣は大体十六からだ

食い下がらない俺に

「ハアー」とため息をつけ「剣の腕で私に勝てたらね」—《可愛らしくウインクする》

無理だ

女だがこの空族の切り込み体長的な存在の人に勝てる気がしない

アイリスはそう言つと同時に男達を引き連れ商船に乗り込んだ

俺はいつも様に部屋に戻りすねて皆の帰りを待つた。

小一時間経つたろうか

周りは静かになり夕日が差し込む

プシュー

扉が開く音と共にアイリスが部屋に入つて来た。すねてる俺を抱き込む様にする  
いつもの事だ戦場から戻ると震えた身体で恐怖を和らげるかのよう  
に抱いてくる

小さい時からのおまじないのような事だ

小さい時は一人で戦いが終わるまで震えて一日を過ごした時もあつたが今、震えているのはアイリスだけだった

五分程経つたろうか震えの止まつたアイリスが口を開いた。「今日の戦利品の中に凄いのあるのよ一緒に見に行こ」

さつきまで震えてたのに打つて変わつて明るい口調で可愛らし笑顔  
を向けてくる

すねていてもこの笑顔にはいつも負けてしまつ

態度は嫌々そうに気持ちはウキウキと戦利品をみについて行つた。

船倉にはいつもより沢山のクルーが集まつていた

ガヤガヤ

「何が入つてんだ?」

「これで当分は遊べんだろ

「開かないらしーぜ」

「マジかよ?」

戦利品の事で話が飛び交つてゐるようだ

「アイリスちゃんお疲れ」そんな中アイリスに気付き労ってきた  
周りの奴らは俺の事は眼中にないかのようにアイリスにだけ話し掛け  
ていた。俺は人混みを縫うようにしてお目当ての戦利品を目指し  
進むと長さ160センチ程の箱に目を奪われた。

「アークだ」

親父が呟く言葉を俺は聞き逃さなかつた

## お詫び（後書き）

ありがとうございました？

続きが気になりませんかね？

今は主人公にセリフを与えていませんが次回から増やしていくひとつ  
思っていますので辛口審査お願いします（^\_^）ノ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7991k/>

---

空の詩

2010年12月10日05時10分発行